

# 景気動向調査の概要【平成27年7月～9月】

平成27年12月25日  
富山商工会議所

## 北米の景気回復を背景に「自動車関連部品」が好調

～大型商業施設のオープンで、人材不足が懸念～

今回の調査では、景気の現状のほかに、マイナンバー制度導入に伴う各企業の準備状況、北陸新幹線や大型商業施設の開業による影響等について聞いた。

景気の現状については「足踏み状態」と回答した企業が約半数を占めた。景気の状態を表す値として「好転」から「悪化」の割合を差し引いた「DI値」（景況判断指数）は「今期」が12.0、「来期の見通し」が8.0といずれもプラス値となった。

業界別の動向を見ると、製造業においては、北米の景気が回復基調にあることから、四輪自動車の販売が回復し、これが後押しして、北米向けの四輪車部品関連の製造が好調に推移した。一方、国内においては、主要な取引先の減産と軽自動車税の増税の影響を受け四輪車の販売不振が続いており、国内向けの四輪車部品関連の製造は、前期に引き続き不調となった。

電子部品関連においても、北米の景気回復の影響もあり、自動車向けの電子部品製造が好調だったほか、スマートフォンやタブレット端末など携帯情報端末分野が順調に推移した。一方、液晶テレビやパソコンなどのデジタル家電分野が依然不調となった。

医薬品関連では、ジェネリック医薬品が好調だったほか、医療向けの医薬品包材や化粧品向けの包材などが順調に推移した。一方、配置用医薬品は依然不調となった。

非製造業においては、旅行関連では、北陸新幹線沿線エリアへの旅行商品の取り扱いが好調だったが、国内航空券単品の取り扱いが前年比40%程度に留まる等、北陸新幹線の影響が顕著となった。

また、飲食関連では、猛暑の影響からランチタイムの売上が低調だったが、9月の大型連休（シルバーウィーク）の効果で、家族連れの利用客が多く、ディナータイムを中心に売上が好調だった。

次に、平成28年1月から導入されるマイナンバー制度について、回答企業の約8割がマイナンバーへの対応に向けた準備を進めていると回答しており、特にマイナンバーが流出しないよう、従業員教育などを徹底していきたいとしている。

最後に、北陸新幹線開業並びに県内各地でオープンした大型商業施設の影響について聞いた。まず、北陸新幹線開業の影響として、首都圏から企業へ訪問する来訪者が増えたといった意見のほか、医薬品業界からは「医薬品関連施設の入館者数が増加した」といった意見も聞かれ、新幹線開業効果を実感する声が寄せられた。次に、大型商業施設のオープンに伴う影響として「商業界全体の刺激になり、消費の活性化を期待する」といった意見があった一方で、雇用面では「パートの採用が大変になった」など、人材不足を懸念する声もあった。

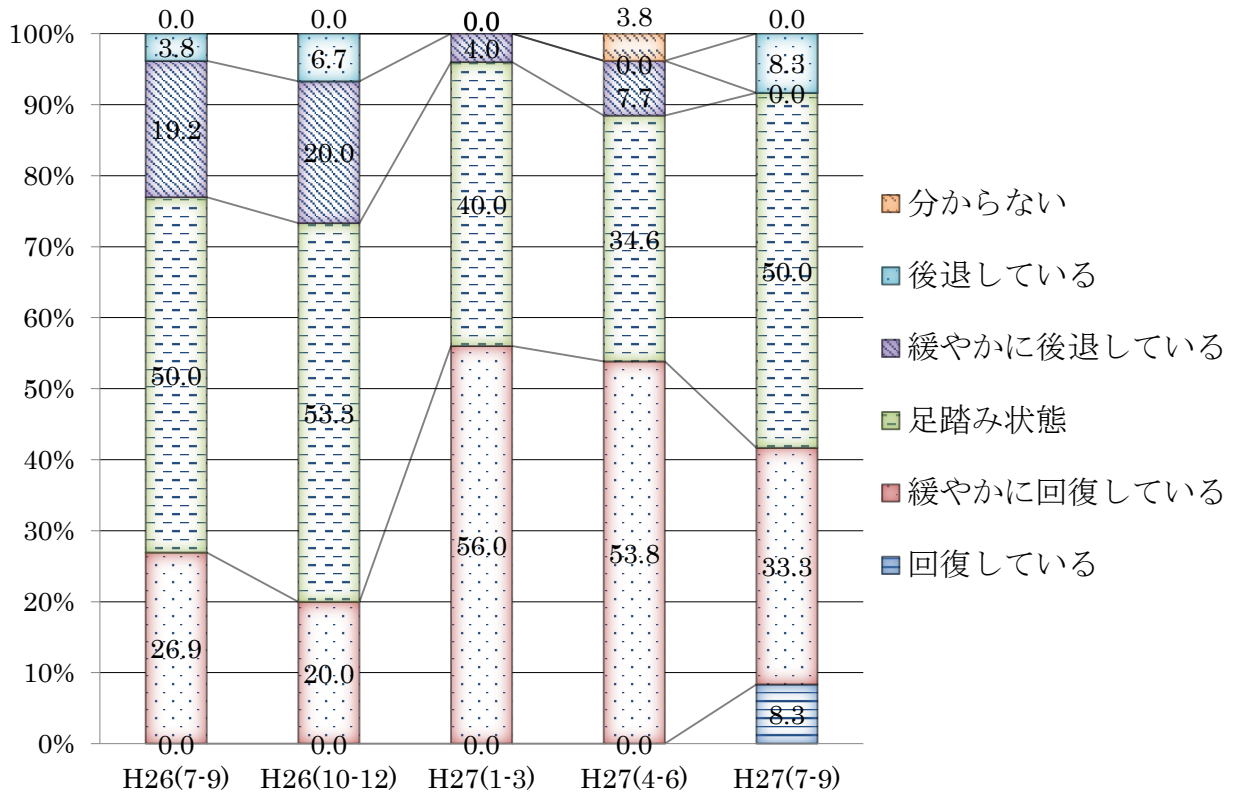
### <実施要領>

1. 調査実施期間 平成27年10月7日～10月16日
2. 調査対象 当所景気モニター企業 29社
3. 調査方法 調査票を郵送し、FAXで回収（一部、電話による聞き取り調査を実施）
4. 有効回答数 25社（回収率86.2%）

## (1) 今期の状況

今期の状況(%)		26年 7-9月期	26年 10-12月期	27年 1-3月期	27年 4-6月期	27年 7-9月期
①売上高	増加	37.0	30.0	52.0	61.5	48.0
	不変	22.2	26.7	20.0	19.2	24.0
	減少	40.7	43.3	28.8	19.2	28.0
	D I	△ 3.7	△ 13.3	23.2	42.3	20.0
②売上単価	上昇	30.8	20.0	16.0	34.6	40.0
	不変	53.8	50.0	52.0	42.3	44.0
	低下	15.4	30.0	32.0	23.1	16.0
	D I	15.4	△ 10.0	△ 16.0	11.5	24.0
③仕入単価	低下	7.7	10.0	4.2	12.0	8.0
	不変	53.8	50.0	54.2	44.0	44.0
	上昇	38.5	40.0	41.7	44.0	48.0
	D I	△ 30.8	△ 30.0	△ 37.5	△ 32.0	△ 40.0
④採算	好転	25.9	26.7	28.0	48.0	44.0
	不変	33.3	23.3	32.0	28.0	36.0
	悪化	40.7	50.0	40.0	24.0	20.0
	D I	△ 14.8	△ 23.3	△ 12.0	24.0	24.0
⑤資金繰り	好転	0.0	3.3	4.2	4.0	8.0
	不変	88.5	83.3	83.3	88.0	88.0
	悪化	11.5	13.3	12.5	8.0	4.0
	D I	△ 11.5	△ 10.0	△ 8.3	△ 4.0	4.0
⑥従業員	増加	11.5	16.7	25.0	32.0	29.2
	不変	53.8	43.3	54.2	36.0	50.0
	減少	34.6	40.0	20.8	32.0	20.8
	D I	△ 23.1	△ 23.3	4.2	0.0	8.4

## 景気の現況について（四半期ごとの推移）



### （２）前期の比較と来期の見通し

今期の業況 (%)		26年 7-9 月期	26年 10-12 月期	27年 1-3 月期	27年 4-6 月期	27年 7-9 月期
前期比	好転	33.3	26.7	36.0	38.5	28.0
	不変	29.6	43.3	48.0	46.2	56.0
	悪化	37.0	30.0	16.0	15.4	16.0
	D I	△ 3.7	△ 3.3	20.0	23.1	12.0
来期の見通し	好転	15.4	16.7	48.0	38.5	28.0
	不変	57.7	40.0	44.0	42.3	52.0
	悪化	26.9	43.3	8.0	19.2	20.0
	D I	△ 11.5	△ 26.6	40.0	19.3	8.0

# 1. 企業からの主なコメントおよび業界の動向

---

## (1) 製造業

### ◆一般機械

海外での自動車生産の拡大と新商品の投入効果及び新規参入、シェアアップなどにより全般的に好調に推移した。一方、採算向上のために選別受注を行った工作機と、需要変動の要因を受けた熱処理の影響では減収となった。

### ◆電気機械

スマートフォンやタブレット端末などの携帯情報端末分野のほか、北米の景気回復の影響を受け、カーエレクトロニクス分野が好調だった。一方、液晶テレビやAV機器、パソコンなどのデジタル家電分野は不調となった。

### ◆輸送機械

北米の景気が回復基調にあることから、四輪自動車の販売も回復しており、これらが後押しして、北米向けの四輪車部品関連の製造が、前期に引き続き好調となった。一方で、国内においては、四輪車の販売不振が続いており、四輪車向けの部品製造が、前期に引き続き不調となった。

### ◆プラスチック

ペット用品は好調だったものの、園芸用品が不調となった。

### ◆医薬品

ジェネリック医薬品が好調だった一方で、配置医薬品が依然不調となった。

### ◆紙・紙加工

好調な医薬品業界の影響を受けて、医療向けの医薬品包材が順調に推移しほか、化粧品向けの包材も前期に比べて好調だった。

### ◆紙流通加工

洋紙・板紙ともに取扱数量が増えたが、家庭紙は不調となった。

## (2) 非製造業

### ◆食料品卸売

キャベツ、はくさい、馬鈴薯、りんご、シャインマスカット、アボガドなどが好調だった一方で、桃、ハウスみかん、アンデスメロンは不調となった。

### ◆リース

輸送用機器や医療用機器のほか、前期低調だった情報関連機器が好調だった。一方で、前期、好調に推移していた産業機器や工作機械が不調となった。

## ◆大型小売店・専門店

### <百貨店>

婦人服洋品、化粧品、宝飾、貴金属、時計が好調だった一方で、紳士服洋品、食品が不調となった。

### <ショッピングセンター>

非食品部門の売上が増加したほか、プレミアム商品券の影響から売上が増加した。

### <大型店>

食品のなかでも特に生鮮食品が好調だった。一方、衣料品全般は不調となった。

### <専門店>

婦人服売り場では、ベージュやカーキ色の商品の売れ行きがよく、カシミヤのロングカーディガンやガウチョパンツの販売が好調だった。

## ◆旅行

国内の一般団体旅行や個人旅行、また海外の団体旅行が好調だったほか、JR券や海外航空券単品の販売も良かった。

一方で、海外のパッケージ旅行や国内の教育団体旅行、国内航空券単品の販売が不調だった。

## ◆宿泊

コンベンションの開催数が多かったことで、宿泊客が増加したほか、宴会や婚礼も順調だった。一方、レストランの個人客が不調だった。

## ◆飲食

夏の猛暑が影響して、ランチタイムの売上が落ち込んだ。一方、9月の大型連休（シルバーウィーク）の効果もあり、ディナータイムでの家族連れの利用が増加した。

## ◆情報関連

エネルギー分野の情報システム開発が好調だった。

## ◆建設工事

県内における7-9月期の公共工事受注額は、前年同期比（7-9月）で▲21.8%と落ち込んだが、前期（4-6月期）の前年同期比（▲40.9%）と比較するとマイナス幅が縮小し、約20ポイント改善した。（東日本建設保証（株）富山支店調べ）。富山市内の新設住宅着工戸数は、以下の通りである。

### <富山市内の新設住宅着工戸数>

	戸数（戸）		前年 同月比(%)
	平成27年	平成26年	
7月	281	401	70.1
8月	171	219	78.1
9月	338	220	153.6

（富山県調べ）

## ◆新車販売

<県内の新規自動車登録台数（軽自動車は除く）> <軽自動車登録届出数>

	台数(台)		前年 同月比(%)
	平成 27 年	平成 26 年	
7 月	2,626	2,756	95.3
8 月	1,995	1,973	101.1
9 月	3,033	3,018	100.5

(富山県自動車販売店協会調べ)

	台数(台)		前年 同月比(%)
	平成 27 年	平成 26 年	
7 月	1,606	1,988	80.8
8 月	1,209	1,289	93.8
9 月	1,892	2,211	85.6

(軽自動車検査協会富山事務所調べ)

## 2. マイナンバー制度導入についての準備状況と問題点等

平成 28 年 1 月からマイナンバーの使用が順次スタートしますが、各企業・団体における準備状況や問題となっている点などについて聞いた。

マイナンバー制度の導入にあたっての各企業・団体の準備状況を聞いたところ、回答企業の約 8 割が導入に向けて「ふつう」又は「進んでいる」と回答し、マイナンバー制度導入に向けての取り組みが進んでいるように思われる。

一方、「進んでいない」又は「全く進んでいない」と答えた企業は、いつごろ、どのようなことが行われるか具体的なスケジュールが発表されてから、本格的に対応したいとしている。

また、各企業・団体からは、マイナンバーが流出した場合、重い罰則が科せられることから、従業員への意識付けや安全管理の周知徹底を図りたいとしている。

### 【準備状況】

状 況	割 合
1. 全く進んでいない	8%
2. 進んでいない	12%
3. ふつう	68%
4. 進んでいる	12%
5. 着々と進んでいる	0%

## 3. 北陸新幹線ならびに大型商業施設開業の影響について

今年の夏は、北陸新幹線が開業して初めての夏休みであるとともに、大型商業施設が県内各地に次々にオープンしたことから、その影響や反応等を聞いた。

### ○北陸新幹線の開業に伴う影響について

北陸新幹線が開業してから半年経過したが、依然客足が衰えず、観光客をはじめ来県者が増加したと

いった意見がもっとも多かった。

ビジネス面では、「金融・証券関連の業種を中心に関東圏からの訪問者が増加した」、「富山県内に設置するデータセンターへの首都圏からの視察が増加した」といった意見があった。

旅行業界からは「北陸新幹線沿線や東北地方への旅行の取り扱いが増えた」といった意見が聞かれた一方で、「国内航空券単品の取扱いは、前年比 40%程度に落ち込んだ」といった意見もあり、明暗が分かれる結果となった。

小売業では、6年ぶりに巡ってきた9月の大型連休（シルバーウィーク）の効果が業績にも影響したようだ。この期間中、「スーパーマーケットでは客足が減少したものの、新幹線効果から外食産業および関連する仲卸業で好調だった」との意見が聞かれた。

観光面では、「富山駅前の交流人口の増加で賑わいが生まれている」との意見も聞かれた。特に医薬品業界からは、「一般客向けの店舗や医薬品関連施設への入館者数が、新幹線効果から増加した」といった意見が聞かれ、「薬都とやま」の浸透が感じられる結果となった。

## ○大型商業施設の開業に伴う影響について

次に、今年の夏、県内で相次いでオープンした大型商業施設の影響について聞いたところ、小矢部市にオープンした「三井アウトレットパーク北陸小矢部」については、「商品や顧客が重複しない」等、あまり影響を感じていないという意見が多く聞かれた。

また、新規に商業施設がオープンしたことで「県内の商業関係者にとって刺激になった。お客様にお越しいただけるようなお店づくりを心掛けたい」といった前向きな意見もあった。

一方で、雇用面では「パートの採用が難しくなった」「人材不足から人件費が増えた」など、人材不足を懸念する声もあった。

以上